



ANNUAL REPORT

平成 22 年度
年次報告書
2010.4.1-2011.3.31



Japan Animal Welfare Society
公益社団法人日本動物福祉協会



●もくじ

ごあいさつ 1

I 動物福祉活動 2

- 動物虐待防止
- 犬・猫の不妊・去勢手術の推進
- ペット動物の譲入問題
- 動物との共生を考える連絡会
- 搬渡事業
- 環境省 中央環境審議会 動物愛護部会
- 農林水産省 検討会
- 各自治体における協議会・委員会
- 緊急災害時動物救援本部
- 動物IPO普及推進会議 (A+P+O)

II 広報・啓発活動 6

- 第51回動物愛護の作文コンテスト
- 動物愛護週間中央行事
- JAWS レポート
- 講演・研修・取材等
- パネル展
- 電話等による相談

III 募金活動 8

- 常陸宮妃華子殿下のご御認絵本
- 各種オリジナルグッズの販売等による募金
- 寄付金

IV 会員募集活動 9

V 事務局関係 9

- 潜時会員懇親会 9
- 定時会員懇親会 9

VI 各支部の活動報告 10

- 北海道支部 (休会中) 10
- 東北支部 10
- 新東京支部 11
- 横浜支部 12
- 相模支部 13
- 南大阪支部 13
- 阪神支部 (休会中) 14
- 徳島支部 14
- 三重連絡所 14

VII 財務状況 15

(特別) 東日本大震災 動物救援義援金のお願い 16

表紙 写真 東日本大震災被災動物の救護 (左)
第2回シェルターメディシンセミナーの様子 (右)

●お振込先：郵便振替
口座番号：00130-6-20714

加入者名：公益社団法人 日本動物福祉協会



動物を虐待から守り
あらゆる「いのち」に
やさしい社会を
築いていくために。

ご支援とご協力をお願い申し上げます。

終身会員(L)	140,000円	1回限り、正会員2名の推薦を要する
法人会員(CJ)	50,000円	(1口) (年額・1口以上)
維持会員(S)	7,000円	年額・正会員2名の推薦を要する
賛助会員(A)	3,000円	年額
青少年会員(J)	1,000円	年額・20歳未満

□□□ 動物救護基金
一般基金 不妊・去勢手術助成基金
その他、協会の全般的な活動に対するご支援 動物の保護・救助・新しい飼い主探しに対するご支援
不妊・去勢手術に対するご支援

ごあいさつ 理事長 山下眞一郎

皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成22年度は当協会創立53年目にあたりますが、ここ数年続く景気の低迷に加え、3月には東日本大震災という未曾有の災害が発生しました。

以来、当協会は、緊急災害時動物救援本部の一員として、国や地元自治体と協働で、被災した動物たちの救護に追われておりますが、皆様からは義援金や、一時預かりへのご協力など、様々な形のご尽力をいただいており、温かいご支援に心から御礼を申し上げます。

例年ご支援いただいているJAWS 英国委員会並びにバッカーズ・ファンデーションはもとより、WSPA等海外の動物救護団体からも義援金が寄せられております。

「動物の愛護及び管理に関する法律」の見直しもいよいよ間近に迫って参りましたが、「動物との共生を考える連絡会」の幹事団体として国会議員や監督官庁への働きかけを強め、関連の検討委員会等の場で積極的な提言を続けております。

今年度は6月と1月に「シェルターメディシン・より良い譲渡を考える」と題してシンポジウムを、また7月には講演会「欧州の動物愛護法の運用状況」を、更に2月には「第2回 RSPCA 動物福祉短期研修会」を開催し、いずれも海外からその分野の専門家を招いて、有益な啓発の場として高い評価を頂きました。

11月には「第51回動物愛護の作文コンテスト」を実施いたしましたが、3月に予定していた「チャリティビンゴ会」は大震災の勃発を受けて延期いたしました。

不妊・去勢手術の助成やマイクロチップの普及活動も継続的に実施して参りましたが、今後もこれ等の活動を積極的にPRすることで、広く社会一般のご理解とご賛同を獲得して参りたいと考えております。

新しい年度も、数々の課題が山積しておりますが、会員並びにご支援下さる皆様のお力添えを頂きながら、人と動物が共に幸せに暮らせる社会の実現に向けて、活動の幅を更に拓げて参りたいと念じております。

皆様のご健勝をお祈り申し上げつつ、平成22年度の活動成果をご報告させていただきます。

名誉総裁

常陸宮妃華子殿下

役員

理事長 山下 真一郎
副理事長 斎藤 勝
理事 安田 幸子
理事 加藤 笑子(経理理事)
理事 兵藤 哲夫
理事 麻生 泰
理事 伊藤 美子
理事 佐野 登(総務理事)
理事 脇部 真二
理事 井上 多賀子
理事 清水 道彦
監事 児玉 惠継
監事 斎藤 公男

海外委員

英國日本動物福祉協会
理事長 T.Crittenden

事務局

事務局長 桜井 邦広
獣医師・調査員 山口 千津子
獣医師・調査員 菅野 多恵
調査員 大竹 里美
事務員 川崎 敏
事務員 富田 裕子
事務員 小犬丸千寿美
CCクロスマッチ 北村 美代子
CCクロスマッチ 深谷 美香
CCクロスマッチ 甲斐 晶子

顧問

安部 勝人 佐良 直美
藤原 澄子 倉林 恵太郎
池本 卯典 遠谷 正
山崎 恵子

I 動物福祉活動

長期化する東日本大震災動物救援活動

●動物虐待防止

まず、東日本大震災で被災された方々に心からお見舞い申し上げます。今年度の最後に、全世界の想像を絶する大震災が日本を直撃しました。地震、津波、そして、福島県では原子力発電所の事故と3つの大災害が重なり、長期化は必死です。広域かつ甚大な被害で、死者・行方不明者2万3千人以上とい



宮城県内の被災地の状況

う中、人と共に暮らしていた動物たちもこの大震災から逃れることはできず、津波に飲み込まれた動物、飼い主とはぐれた動物、飼い主と共に避難できた動物、自宅に留められた動物、飼い主を待ちつ

つなくなった動物と様々な境遇に置かれています。

3月11日の発災以後、ライフラインの崩壊、道路・鉄道の寸断、ガソリン不足で困難を極める中、現地と連絡を取りつつ、被災状況、被災動物の救助活動状況、必要物資等の現状把握に努め、できるだけ早く必要なところに必要なものを届け、現地動物救済活動の支援のために、緊急災害時動物救援本部((財)日本動物愛護協会、(公社)日本愛玩動物協会、当協会、(社)日本獣医師会の4団体で構成)として支援物資の募集と募金を開始しました。現地で被災動物の保護をされているところへの支援と共に、東京及び近郊に同行避難してこられた方々のペット、あるいは、被災者から依頼されたペットの一時預かりを地域獣医師会との協力の下に開始しました。また、被災地を訪れ、避難所の動物たちの状況や被災しながらも動物たちを預かってくれている動物病院、いち早く立ち上がった動物救護施設等を視察し、現地の自治体・獣医師会と動物救護のための話し合いを持ちました。刻々と状況が変化する中、現状への対応と今後を見据えた長期的な目でこの動物救援活動を継続させていく必要があります。

今年度は、予定されている動物愛護管理法の見直しの検討の時期に当たり、平成24年の通常国会に改正案を提出すべく、環境省が「動物愛護管理のあり方検討小委員会」を立ち上げ、月2回のペースで、様々な項目の検討を始めました。多岐に亘る項目の中でもかなり討議に時間を費やしているのが、動物取扱業に関してです。前回の改正で動物取扱業の規制が強化されたにもかかわらず、いまだに劣悪飼育管理や販売トラブルが後を絶たません。法律には、施行規則や細目で、施設設備や飼育管理について守らなければならぬことが示され、販売時の説明責任も明示されています。それが守られることが前提で登録が認められているはずですが、そのチェック機能が十分果たされていないのが現状です。法律に詰っていても、適用され

平成21年度全国統計

	引取数		処分数	
	成熟個体	幼令個体	返還・譲渡	殺処分
犬	74,297	19,510	32,944	64,061
猫	44,565	133,220	10,621	165,771

(注)引取数の成熟個体には、狂犬病予防法に基づく抑留が含まれる。
殺処分には、幼令個体などの保管中の病気等による死も含まれる。
(幼令の個体は離乳していない個体)

(環境省)

ないのなら、詰っていないのと同じです。その最たる事例が栃木県で発生しました。ネットで猫の販売をしている業者の飼育管理が劣悪で、飼育施設の近隣の住人からも臭気等の苦情が出ていました。苦情が出ても改善するのではなく、やどかりのように、プレハブの飼育施設ごと移動します。ほとんどの猫は不健康であり、獣医師による治療も受けることなく、感染症はあつという間に広がってしまいます。もちろん猫を購入した人々からは、病気だったという苦情が多く、購入トラブルになっています。栃木県も何度も指導に入りましたが、改善が見られることもなく、また、登録の名前が別名になっていたり、住所変更も届けずに営業を継続していたので、県は動物愛護管理法違反で登録を取り消す行政処分を行いました。今後2年間は登録申請ができません。法律を改正しなくても、現行法の適用で改善できることもあるのです。クーリングゲーム機内に生き物を入れたり、景品として動物を使ったり、免年となればすぐさまサギと触れ合いさせるカフェが開業したりと今年度もいろいろな形で生き物を利用する業態が出てきましたが、新手の商売はこれからも次々と出てくると思われますので、動物福祉の観点から包括的に規制できるようにする必要があります。

東日本大震災における被災動物の救援活動の真っ只中ですが、普段からの適切な動物の飼育管理、マイクロチップによる個体識別等の重要性がいまさらのように身にしみます。当協会には、毎日のように動物の不適切な飼育管理に関する苦情が寄せられますが、飼い主は、飼い主責任として、緊急災害時の対応を常に頭に置きつつ、同行避難を前提とした動物種・頭数も含め適切な飼育管理を心がけていただきたいと思います。



市川市の同行避難できる避難所に併設されたペットハウス。獣医師が健康チェックをする

● 犬・猫の不妊・去勢手術の推進

平成22年度の「捨て犬・捨て猫防止キャンペーン」は、栃木県と石川県を対象に実施いたしました。例年通り各地域それぞれ犬猫合わせてメス200頭、オス100頭の募集をし、不妊・去勢手術の助成金は、メスは1頭1万円、オスは1頭5千円とさせていただきました。

獣医師会や自治体に応募ポスター掲示のご協力を頂きながら、地域の新聞社にも記事として取り上げていただきました。また、栃木県に関しては栃木支部、石川県に関しては会員の皆様にお声掛けのお手伝いを行っていただき、たくさんのご応募をいただきました。

応募の多くは、飼い主のいない猫に不妊去勢手術を実施したいというものです。病気や事故に遭いやすく、室内飼いの飼い猫と比べて短命な野良猫をこれ以上増やさないために、また糞や鳴き声、公衆衛生等に関する地域の問題を解決するためには、野良猫の不妊去勢手術は必須です。このキャンペーンをきっかけに、助成金制度がない地域には、猫の為にも地域環境の為にも助成金制度を設けていただけることを切に願います。

	手術実施頭数			
	メス(頭)		オス(頭)	
	犬	猫	犬	猫
栃木県	43	170	12	78
石川県	37	169	22	81
合計	80	339	34	159

各支部でも不幸な人や猫を1頭でも減らす為、不妊・去勢手術の助成金を出して手術の普及に努めました。

手術の助成頭数の内訳は以下の通りです。

	メス	オス	不明
支部合計 助成頭数	972	515	1107
本部合計 助成頭数*	433	199	0
本部・支部助成頭数	1405	714	1107

*捨て犬・捨て猫防止キャンペーン、CCクロを含む

● ペット動物の購入問題

本年度に当協会へ寄せられたペットの購入トラブルに関する相談件数は17件で、昨年度に比べると半分以下に減少しました。しかし、国民生活センターや全国の消費者センターには、ペットサービスやペット用品のトラブルも含めた動物に関する相談が本年度も2,000件以上* 寄せられており、動物の購入に関するトラブルが決して減少しているということではありません。当協会が受けた相談の内容は、8割以上が購入した動物が病気だったという健康に関する相談で、国民生活センターや全国の消費者センターに寄せられる相談内容もその約6割が動物の健康に関する相談のことから、健康に関する問題が依然根強いことが分かります。健康に関するトラブルは、購入前

よりその兆候が分かっていた例が少なくありません。例えば、購入時に販売側から「今日は少し体調が悪いが問題ない」といった説明があっても、可愛い動物をすぐに連れて帰りたいという感情が先走り、契約書の内容もよく読まずに購入してしまう場合があります。こういった場合、購入後に治療費の請求をしても具合が悪いことを了解済みで購入していることを逆手に取り、全く取り合ってもらえないケースがあります。購入時に冷静な判断ができていれば事前に防げたかもしれないトラブルに関しては、購入側の知識を向上させることもトラブルの減少に繋がる重要なポイントになります。

本年度当協会に寄せられた相談の中で、通信販売で動物を購入した結果トラブルになったという相談は17件中2件でした。内1件は、送られてきた動物が体調不良で治療費の請求をしたが最終的に販売側と連絡が取れなくなってしまったという内容でした。通信販売は動物と一度も対面しないまま購入しますので、元々病気を持っている可能性や、販売側と連絡が取れなくなる可能性は十分にあります。また、動物に負担の大きい長距離輸送についても十分に考えなくてはなりません。店舗に直接出向いて動物を確認してから購入した場合でも購入トラブルが起こっている中で、販売者や動物そのものを実際に確認することなく、通信販売で購入することは非常にリスクが高いのです。さらに、通信販売で動物を購入するのと同様にトラブルになりやすいのが、イベント時に行なわれる動物の移動販売です。移動販売は直接動物と対面して購入することはできますが、特定の店舗を持たないために購入後に販売側と連絡が取れなくなる可能性があります。このようなことから、当協会としては動物の通信販売・移動販売に関して反対の意を示し続けています。来年に予定されている動物愛護管理法の見直しで、法律による通信販売や移動販売の禁止に向け、動物との共生を考える連絡会では「ストップ! ペットのネット販売・移動販売キャンペーン」を引き続き行っています。

*国民生活センターホームページより

● 動物との共生を考える連絡会

今年度も幹事団体として現行動物愛護管理法の普及徹底と適用推進に努力すると共に、環境省が平成24年の通常国会にかけようとしている現行法の見直しに向けて、シンポジウム「法で支える動物との共生～今、何が欠けているのか？」を全国で展開しました。東京・大阪・福岡・愛知・岩手・新潟の各都府県



で開催し、各地で動物の保護に関わっておられる自治体職員・獣医師・愛護団体にパネリストとしてお話をいただき、参加者と共に真に動物を守る法律にするために、大いに討論いたしました。また、2月には連絡会セミナー「動物を守る法律を考える～RSPCA英國王立動物虐待防止協会の経験から」を開催し、RSPCAインスペクター及び国際部研修担当者をお招きして英國動物福祉法とその改正のポイントをお話いただきました。

●譲渡事業

新しい 飼い主さがし

本年度も本部・支部にて、新しい飼い主さん探しのお手伝いをいたしました。本部からは犬9頭・猫1頭・ウサギ1頭、本部CCクロからは犬69頭、そして支部（6支部合計）からは犬101頭・猫208頭、全体で犬179頭・猫209頭・ウサギ1頭もの動物たちと飼い主さんとの出会いに立ち会うことができました。



◆飼い主さんの事情で動物病院に預けられていた7歳のシーズー犬です。新しい飼い主さんのご自宅には先住の猫達がありますが、譲渡日から猫や新しい環境に対する警戒心は全くなく、お腹を出して寝転んでいる状態でした。今では猫達ともすっかり仲良くなっているそうです。お散歩があまり好きではないとのことですが、暖かい家族に囲まれて幸せに生活しているようです。



◆都内の賃貸マンション室内に置き去りにされた猫（メス）をJAWSで保護しました。動物病院にご協力頂き、4か月間新しい飼い主探しをした結果、良いご縁がありました。モモちゃんという新しい名前を付けて頂き、今では呼ぶと返事をしてくれるそうです。先住の猫とも、猫同士上手に付き合っているようです。



◆テトくん（オス）、は生まれてから約1年間、飼い主さんの事情でほとんど家の中だけで過ごしていました。そのため、初めは外に出ることも見知らぬ人もとても怖がっていましたが、新しい飼い主さんは、少しずつ新しいことや人に慣れさせてくださいました。慎重な性格のテトくんですが、家族皆さんにはすっかり甘えているそうです。



◆ピンちゃん（ボメラニアン、オス、8歳）は、子犬の頃から大切に飼育されていたご家族からの譲渡でした。当初は環境の変化に戸惑った様子が見られましたが、新しい飼い主さんが様々な工夫や暖かい気持ちを注いでくださり、落ち着きました。公園へのお散歩も元気に楽しんでいるようです。



◆この7歳のMダックス（メス）は、とても社交的な性格で周囲を楽しませてくれます。新しい飼い主さんは、外国の方ですが「クロちゃん」という名前を変えずに迎え入れて下さいました。おやつが大好きなところは今でも健在です。クロちゃんはご家族にとても愛されています。



◆新しい飼い主さんは、うさぎの飼育経験が長く、譲渡後に不妊手術や健康診断もしてくださるなどとても気を配って頂いています。譲渡初日から、ジンジンちゃん（ネザーランドラビット、メス、1歳）は不思議と新しいお家に馴染んでいるように見えました。居心地の良さの現れかもしれません。



◆劣悪な環境のため、体重が2.8kgまで落ちたこの犬（キャバリア、メス）をJAWSで保護しました。沢山の方々の善意に支えられ、体調を取り戻し、新しい家族も見つかりました。保護した時は名前もない犬でしたが、「ハノン」ちゃんと名付けられ、毛がほとんどなくなっていた尻尾も今では自慢できるくらい立派になっているそうです。



CCクロ

このたびの東日本大震災で被害に遭われた被災地の皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。神戸の地からは現地での支援が困難である中、少しでも被災地の皆様のお力になりたいと考え、阪神淡路大震災のご恩返しの気持ちもこめて、まずは義援金を送らせていただく形での後方支援を継続していきたいと思っています。神戸市動物管理センター職員、CCクロボランティアのほか、センター敷地内の募金箱にも支援のお気持ちを託してください

る方がおられますので、月ごとにまとめて緊急災害時動物救援本部あてに送金させていただきます。

また、神戸市との官民協働である譲渡事業においては、夜間保管の困難であった授乳期の子犬を団体譲渡という形で救えるようになっただけでなく、CCクロのボランティアの中で一時預かりを積極的に進めていくような体制づくりを目指してきました。特に子犬の社会化のための一時預かりの重要性を、ボランティア一同実感しているところです。

◇お里がえり会の開催

これまで飼い主さん同士の交流やゲームなどを取り入れた同窓会を年に2回開催してきましたが、新たな試みとして3ヶ月ごとに「お里がえり会」を開催することになりました。譲渡後2~3ヶ月経ってから飼い主さんのお悩みが出てくることが多いという現状に鑑み、茶話会のような雰囲気の中で悩み相談や愛犬自慢をしていただければと企画したものです。毎回5~6組の参加があり、ご家庭での犬たちの様子を語っていただく中で、同じ悩みを共有できたり、情報交換の場にもなっています。

◆イベントへの参加 地域の動物愛護フェスティバルや他団体主催のイベントへの参加を通して、CCクロのPRだけでなく、適正飼養についても考えられるプログラムを工夫してきました。一言で啓発といっても難しく、言葉で伝えるだけでは限界もあり、どんな世代の人にも理解していただけるように、と視覚に訴える形でのプログラムを実践しています。デザイナーさんにご

協力いただき、大型パネルや犬の模型、着ぐるみを使って、犬の飼養に欠かせない大切なことを会場の方々と一緒に考えます。参加している子どもたちから、犬を大事に思う「気持ち」が必要という答えが返ってきたとき、嬉しく感じたとともに、このようにみんなで考え合うことのできる啓発の場がもっともっと必要ではないかと痛感しました。



◆不妊・去勢手術実施頭数と譲渡実績 2010年度の不妊去勢手術実施頭数は、オス14頭、メス21頭の計35頭、新しい飼い主のもとに迎えられた犬は、子犬35頭、成犬34頭の計69頭でした。

また、2009年度より、子犬を迎えてくださったご家庭に不妊去勢手術助成金を交付させていただけたことになりましたが、2010年度の助成金交付数は、オス6頭、メス14頭の計20頭でした。



◎RAYくん（雑種・♂）



フードのご寄付のために来所された飼い主さんとの運命的な（！）出会いの末、ご家庭に迎えていただきました。ちょっぴり甘えん坊のRAYくん、ごほうびのおやつがあれば、つい神張っちゃう姿が微笑ましいかぎりです。



◎ムギくん（雑種・♂）



譲渡後の健診で白血球が少ないことがわかったそうですが、かかりつけの獣医さんと相談され、去勢手術も無事に済ませたそうです。万が一のときに備えマイクロチップも装着済み。家族の一員としてとても大切に育てていただいている。



ムギくんとRAYくんは兄弟です！



もえちゃん（雑種・♀）と、はなちゃん（雑種・♀）も姉妹犬です。

幸
せ
に
なっ
た

犬
た
ち

III 募金活動

ご支援に感謝

●常陸宮妃華子殿下のご翻訳絵本

妃殿下が翻訳された絵本は「ぼくじゃないよジェイクだよ」「せかいでいちばんおりこうな犬」「89番めのネコ」「ハニーが盲導犬になるまで」「しょうぼう犬ドット」の5冊ですが、そのうち「せかいでいちばんおりこうな犬」は残念ながら現在絶版となっております。美しい挿絵と温かくやさしい文章が大変好評で、バザーなどでは多くのお客様が、お子様やお孫様の為にお買い求めになります。妃殿下のご好意で、売上と印税は動物福祉の為にと、当協会へご寄附いただいております。

●各種オリジナルグッズの販売等による募金

JAWSのロゴ入りTシャツ・ポロシャツは在庫が僅かになり、現在新たに発注を検討しております。又、新製品としてペットと飼い主が兼用できるフリース製のブランケットを用意いたしました。動物カレンダーは、今年度から見開きA3型に変更しましたが、(公社)日本青年会議所様は例年同様に大量にご購入され、大きなご支援を頂いております。慈善bingo会は直前の東日本大震災勃発を受け、延期となりましたので、今年度の募金収入は、1170万円と昨年度を114万円ほど下回りました。相変わらず厳しい経済状況が続いている中、会員の皆様のご尽力とご支援には心から感謝申し上げます。

●寄付金

当協会の活動趣旨にご賛同いただき本年度も多く多くの団体、会員を含めた個人の皆様からご寄付を賜りました。

◆寄付者ご芳名（敬称略）

大江 美晴	1,010,000
宮崎 純枝	1,001,000
社団法人 昭和会館	500,000
財団法人 日本いけばな芸術協会	450,000
一般財団法人 ジャストギビングジャパン	449,400
土田 謙一（くまちゃん）	300,000
日本ヒルズ・コルゲート株式会社	300,000
桜鞍会	300,000
社団法人 常磐会	300,000
学習院 桜友会	250,000
学校法人 シモゾノ学園	222,000

宮下 直美	200,000
藤崎 順子	200,000
村田 永子	160,000
山口 以昌	147,000
マースジャパン リミテッド	142,784
有限会社 ニューフレンズ	136,240
松田 早苗	122,500
中塚 雅敏	112,318
石原 ます子	105,584
菅原 豊	100,000
佐藤 史歩子	100,000

◆定期的なご寄付者（敬称略）

学校法人ヤマザキ動物看護短期大学 高村訓子
仲上誠 国際ソロブチミスト東京
(特非) 日本愛玩動物職業技能協会 石原動物病院
加藤雅一 津由利子 松岡栄子 山脇美恵子 加藤治子
石井重則 鶴田弘美 ゴトウカヨコ 青年経済人俱楽部
豊嶋純子 宮川和子 柏木良 市川禮子 小原良子
田村恵 有限会社日淞ハウジング松浦 山崎百合亜

天野由利子 中村晃子 山田昌子 中村由紀子 岡本芳子
村上寿子 溝口健治 張替邦夫 弓削和子 水野恵美子
高橋光太郎 新美絵里子 西岡千秋 天野祥子
小笠原美保子 元上久枝 副馬桂子 小島礼子 黒木敬子
浅葉桂子 水野まりこ 竹内靖子 内田ひろみ 村田芳子
山崎敏子 上谷陽子 I.Charley 遠藤さくら

ここに掲載できなかった方々に対しましても心から感謝申し上げます。

IV 会員募集活動

新会員の募集

名 誉 会 員	2 名
法 人 会 員	26 社
終 身 会 員	155 名
維 持 会 員	281 名
贊 助 会 員	2,136 名
青 少 年 会 員	76 名
合 計	2676 名

22年度は新規入会者が327名に対し、退会者が360名であり、33名の減少となりました。法人会員は入会が2社、退会が4社で2社の減となりました。

当協会の活動の基盤は会員の皆様のご支援であります。協会の実績を更にPRし、新たな会員を獲得していくことは私共にとって大きな命題であります。

各支部におかれても、新規会員の獲得にこれまで以上のご尽力をお願い申し上げます。平成22年度末の会員数は右表通りです。

※ご住所を変更された方は、必ず事務局へご一報下さいよう、お願い致します。

V 事務局関係

会員総会

●臨時会員総会

平成22年10月5日(土) 平成22年度臨時会員総会が「ゆうばうと」(東京都品川区西五反田)において開催されました。

議題として第1号議案「定款改定の件」 第2号議案「監事選任の件」が上程され、ともに承認・可決され、午後2時20分に閉会しました。

●定時会員総会

平成23年6月4日(土) 平成22年度定時会員総会が「ゆうばうと」(東京都品川区西五反田)において開催されました。

議題として、第1号議案「平成22年度事業報告」 第2号議案「平成22年度会計報告」が上程され、ともに承認・可決され、午後2時40分に閉会しました。